平成26年２月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年10月15日

上場会社名	ネオス株式会社		上場取引所　東
コード番号	3627　　ＵＲＬ　http://www.neoscorp.jp/		
代表者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）池田 昌史	
問合せ先責任者	（役職名）取締役兼執行役員企画部長	（氏名）中野 隆司	ＴＥＬ　(03)5209-1590
四半期報告書提出予定日	平成25年10月15日	配当支払開始予定日	―

四半期決算補足説明資料作成の有無：　無

四半期決算説明会開催の有無　　：　有　　（機関投資家、証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．平成26年２月期第２四半期の連結業績（平成25年３月１日～平成25年８月31日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年２月期第２四半期	4,157	29.0	277	23.5	292	24.2	160	―
25年２月期第２四半期	3,221	14.1	224	△14.1	235	△9.7	△122	―

（注）包括利益　　26年２月期第２四半期　　160百万円　（―%）　　25年２月期第２四半期　　△124百万円　（―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年２月期第２四半期	20.57	19.97
25年２月期第２四半期	△15.82	―

25年２月期第２四半期連結累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの１株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

当社は平成25年７月29日開催の取締役会決議により、平成25年９月１日を効力発生日として、普通株式１株を100株に分割し、１単元の株式数を100株とする単元株制度を採用致しました。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、１株当たり四半期純利益又は潜在株式調整後１株当たり四半期純利益を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年２月期第２四半期	4,103	3,168	76.3	398.45
25年２月期	3,707	2,989	79.5	379.28

（参考）自己資本　　26年２月期第２四半期　　3,132百万円　　25年２月期　　2,946百万円

当社は平成25年７月29日開催の取締役会決議により、平成25年９月１日を効力発生日として、普通株式１株を100株に分割し、１単元の株式数を100株とする単元株制度を採用致しました。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、１株当たり純資産を算定しております。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年２月期	―	0.00	―	450.00	450.00
26年２月期	―	0.00			
26年２月期（予想）			―	4.50	4.50

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

当社は平成25年７月29日開催の取締役会決議により、平成25年９月１日を効力発生日として、普通株式１株を100株に分割し、１単元の株式数を100株とする単元株制度を採用致しました。そのため、平成26年２月期（予想）の年間配当金については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

３．平成26年２月期の連結業績予想（平成25年３月１日～平成26年２月28日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,300	10.4	420	32.1	420	15.1	210	―	27.03

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

当社では、激変する携帯電話業界の構造変化に柔軟に対応するため、グループ経営の強化に取り組んでおります。また、現在、携帯電話業界は、非常に速いスピードで構造変化が進行しつつあり、短期的な業績動向については変動要素が多いため、当社では、年間ベースでの業績管理に重点を置いた経営管理を強化しています。これらを踏まえ、現在、当社のグループの業績予想については、連結業績に関する年間業績の開示のみとしております。

当社は平成25年７月29日開催の取締役会決議により、平成25年９月１日を効力発生日として、普通株式１株を100株に分割し、１単元の株式数を100株とする単元株制度を採用致しました。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、１株当たり当期純利益を算定しております。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：　無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無
②　①以外の会計方針の変更　：　無
③　会計上の見積りの変更　：　無
④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年２月期２Ｑ	7,862,100株	25年２月期	7,768,800株
②　期末自己株式数	26年２月期２Ｑ	ー株	25年２月期	ー株
③　期中平均株式数（四半期累計）	26年２月期２Ｑ	7,787,240株	25年２月期２Ｑ	7,762,683株

当社は平成25年７月29日開催の取締役会決議により、平成25年９月１日を効力発生日として、普通株式１株を100株に分割し、１単元の株式数を100株とする単元株制度を採用致しました。
これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しています。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。
実際の業績等は、業況等の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
４．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 5
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 5
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 6
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8
（６）セグメント情報等 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間（自平成25年３月１日 至平成25年８月31日）における日本経済は、輸出の持ち直しや製造業を中心とした企業収益の改善、個人消費の堅調な伸び等により、自律的回復に向けた明るい動きがみられ、2020年東京五輪の開催決定によるマインドの高揚やインフラ整備投資への期待も相俟って、景気浮揚の観測が強まりつつあります。ただ、一方で、海外景気の下振れリスクや来春の消費税増税による影響懸念も依然存在しており、手放しで景気上昇を見込むには至っていない状況にあります。

携帯電話市場においては、スマートフォンの個人普及率が４割を超えたと推定され、イノベータ層普及のフェーズからマジョリティ層への浸透段階に移行しつつあります。ただ、フィーチャーフォン時代のキャリアポータルやソーシャルゲームポータルのようなユーザー導線の標準的な形態は、スマートフォンではまだ確立されておらず、OSベンダーや携帯キャリア、有力コンシューマーサービス事業者などのビッグプレーヤーは、スマートフォンにおけるユーザーサービスの主導権を握ることを目指し、多種多様なサービスの展開・整備を進めています。

このような状況の中で、ソリューション事業においては、当社グループの強みである総合力を駆使し、さらなるサービスプロバイダー化を志向する携帯キャリアに対し、ソリューション提案を積極的に推進し、エンドユーザーに対するさまざまなサービス開発を多方面からサポートしております。

プロダクト＆サービス事業においては、スマートフォンにおけるユーザーサービス市場が未確立段階であることを踏まえ、新規のプロダクト＆サービスの開発、投入に果敢にトライしており、テレビに差すだけでスマートフォンコンテンツが再生できる「dstick」や、３Ｄ描画エンジン「MatrixEngine」などのミドルウェア、さらにアイコンきせかえ、「LINE（ライン）」スタンプといった新しい形式のコンテンツ提供など、フィーチャーフォン時代になかったスマートフォンならではのプロダクト＆サービスが成果を上げ始めています。

これらの結果、当第２四半期連結累計期間の売上高は4,157,223千円（前年同期比29.0％増）、営業利益277,326千円（前年同期比23.5％増）、経常利益292,397千円（前年同期比24.2％増）、純利益160,211千円（前年同期は122,870千円の純損失）と、大幅な拡大を達成しました。なお、当第２四半期連結累計期間の経常利益は、半期毎の期間損益としては、当社創業以来の最高益となりました。

以下、事業別の動向について述べます。

＜ソリューション事業＞

当第２四半期連結累計期間におけるソリューション事業の売上高は2,244,966千円（前年同期比16.3％増）と大きく増加しました。

ソリューション事業においては、携帯キャリアを中心としたビッグプレーヤーのユーザー向けサービスに対する開発需要が引き続き旺盛で、システム構築・アプリ開発・コンテンツ制作・サービス運用等までカバーした当社グループの総合力を活かして、このニーズに積極的に対応を図っています。

また、当社が得意とする先端技術に関するソリューション提供に関しては、TizenOS関連に注力しており、Tizenの特徴を活かしたアプリケーション開発を始めとして、AndroidOS、iOSアプリケーションの移植開発やベンダー向け教育・セミナーなど、新技術の導入、普及に関わる活動を含めて、積極的に取り組んでおります。

法人向けソリューションにおいては、今まで中軸として進めてきたメディカル・ヘルスケア分野のウェブソリューションに加え、HTML５に代表されるスマートフォン技術を機軸としたソリューションという視点から事業フィールドの拡大を推し進めており、その結果、全日本空輸株式会社の国内・国際線予約サイト「ANA SKY MOBILE」など、新たな業種の顧客やコンテンツ分野に幅を広げております。

＜プロダクト＆サービス事業＞

当第２四半期連結累計期間におけるプロダクト＆サービス事業の売上高は1,912,257千円（前年同期比48.1％増）と大幅な拡大を達成しました。

プロダクト＆サービス事業においては、テレビに差すだけの簡単接続で、NTTドコモの「dビデオ」、「dアニメストア」、「dヒッツ」の豊富なコンテンツを自宅のテレビで再生できる「dstick」事業が、スタート時から順調に推移し、売上の拡大をリードしました。

ソフトウェアライセンス事業については、アニメーションメールエンジン「アニエモ」、３Ｄ描画エンジン「MatrixEngine」、音質向上ソフトウェア「Audyssey」等のミドルウェアプロダクトが、スマートフォン端末拡大に沿って順調に推移しています。

キャラクター、ヘルスケア、電子ブック等のサービス系事業については、従来型のフィーチャーフォンサービスのダウントレンドが落ち着く様相もみえ、また、スマートフォン等の新規分野の売上拡大も本格化しつつある状況にあります。

この中で、キャラクターサービスについては、引き続きファンサイトサービスを強化しており、新たに「ムーミン」「初音ミク」のファンサイトの展開を開始しました。また、「LINE」で好評の『水森亜土』スタンプの第２弾【水森亜土２ HappyGirls!】の配信をスタートしました。

さらに、iPhone向けサービスにも本格的に取り組みつつあり、エヴァンゲリオンのコイン落としゲーム「エヴァアーケードシリーズ コインダイバー」や「浜崎あゆみ 15th Anniversary アイコンきせかえ」など、iPhone、Android双方に対応したネイティブアプリベースのビジネスも推進しております。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末の資産の部の合計は4,103,500千円（前連結会計年度末は3,707,031千円）と、前連結会計年度末に比べ396,469千円増加いたしました。当第２四半期連結累計期間の主な増減内容は以下のとおりであります。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ377,895千円増加し、2,921,506千円となりました。これは主に現金及び預金や、受取手形及び売掛金の増加によるものです。

固定資産につきましては、無形固定資産が36,640千円増加、投資その他の資産が13,061千円、有形固定資産が5,005千円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ18,573千円増加し、1,181,993千円となりました。

当第２四半期連結会計期間末の負債の部の合計は934,948千円（前連結会計年度末は717,988千円）と、前連結会計年度末に比べ216,960千円増加いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金、未払法人税等の増加によるものです。

当第２四半期連結会計期間末の純資産の部の合計は3,168,551千円（前連結会計年度末は2,989,043千円）と、前連結会計年度末に比べ179,508千円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成26年２月期の業績予想につきましては、平成25年４月９日付「平成25年２月期 決算短信」において発表いたしました連結業績予想に変更はありません。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況等の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、新たに設立したネマステックジャパン株式会社を連結の範囲に含めております。

また、当第２四半期連結会計期間より、株式会社カメリアシステムは当社を存続会社とする吸収合併を行ったため、連結の範囲から除外しております。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成25年２月28日）	当第２四半期連結会計期間 （平成25年８月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,033,298	1,316,706
受取手形及び売掛金	1,022,552	1,293,284
仕掛品	103,458	39,818
その他	384,301	271,695
流動資産合計	2,543,611	2,921,506
固定資産		
有形固定資産	163,297	158,292
無形固定資産		
のれん	135,052	111,751
ソフトウエア	339,802	327,605
その他	59,830	131,968
無形固定資産合計	534,685	571,325
投資その他の資産		
その他	468,949	483,188
貸倒引当金	△3,512	△30,812
投資その他の資産合計	465,437	452,376
固定資産合計	1,163,420	1,181,993
資産合計	3,707,031	4,103,500
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	280,438	362,459
未払法人税等	2,332	55,376
賞与引当金	196,828	160,634
ポイント引当金	5,796	4,362
その他	195,339	314,168
流動負債合計	680,735	897,000
固定負債		
資産除去債務	37,253	37,947
固定負債合計	37,253	37,947
負債合計	717,988	934,948
純資産の部		
株主資本		
資本金	950,148	978,931
資本剰余金	940,148	968,931
利益剰余金	1,056,280	1,181,532
株主資本合計	2,946,577	3,129,395
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△6	3,290
その他の包括利益累計額合計	△6	3,290
新株予約権	39,702	33,693
少数株主持分	2,769	2,172
純資産合計	2,989,043	3,168,551
負債純資産合計	3,707,031	4,103,500

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年８月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年３月１日 至　平成25年８月31日）
売上高	3,221,538	4,157,223
売上原価	2,240,325	2,906,432
売上総利益	981,213	1,250,790
販売費及び一般管理費	756,571	973,464
営業利益	224,642	277,326
営業外収益		
為替差益	－	8,345
その他	14,142	7,688
営業外収益合計	14,142	16,033
営業外費用		
創立費償却	－	375
開業費償却	－	370
その他	3,431	217
営業外費用合計	3,431	962
経常利益	235,353	292,397
特別損失		
減損損失	347,727	－
合併関連費用	15,145	－
持分変動損失	15,341	－
投資有価証券評価損	2,999	－
特別損失合計	381,214	－
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△145,860	292,397
法人税、住民税及び事業税	61,277	48,259
法人税等調整額	△85,385	86,654
法人税等合計	△24,107	134,913
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△121,752	157,483
少数株主利益又は少数株主損失（△）	1,117	△2,727
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△122,870	160,211

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年８月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年３月１日 至　平成25年８月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△121,752	157,483
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,314	3,296
その他の包括利益合計	△2,314	3,296
四半期包括利益	△124,066	160,780
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△125,184	163,507
少数株主に係る四半期包括利益	1,117	△2,727

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年８月31日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成25年３月１日 至　平成25年８月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△145,860	292,397
減価償却費	200,292	149,272
のれん償却額	23,745	23,800
貸倒引当金の増減額（△は減少）	3,512	27,300
賞与引当金の増減額（△は減少）	△35,280	△36,194
ポイント引当金の増減額（△は減少）	△2,943	△1,433
売上債権の増減額（△は増加）	2,987	△270,732
たな卸資産の増減額（△は増加）	50,455	63,625
仕入債務の増減額（△は減少）	△14,171	82,020
その他	338,983	48,512
小計	421,719	378,569
利息及び配当金の受取額	107	125
利息の支払額	△222	－
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△169,633	81,551
営業活動によるキャッシュ・フロー	251,970	460,246
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△14,176	△10,052
無形固定資産の取得による支出	△149,212	△178,250
差入保証金の差入による支出	△1,623	△2,811
子会社株式の取得による支出	△139,699	△3,268
その他	△32,251	△255
投資活動によるキャッシュ・フロー	△336,963	△194,638
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	400	48,017
配当金の支払額	△34,369	△35,117
少数株主からの払込みによる収入	3,959	4,900
その他	△780	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	△30,789	17,800
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△115,781	283,407
現金及び現金同等物の期首残高	1,222,669	1,033,298
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,106,887	1,316,706

（４）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。
（６）セグメント情報等
前第２四半期連結累計期間（自　平成24年３月１日　至　平成24年８月31日）及び当第２四半期連結累計期間（自　平成25年３月１日　至　平成25年８月31日）
当社グループは、情報サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。